

## 平成18年度「専修学校を活用した若者・自立挑戦支援事業」成果報告書

事業名	自己発見・自己ブランディングにおけるワークショッププログラムの開発、検証。		
法人名	学校法人 小山学園		
学校名	東京工科専門学校		
代表者	理事長 山本 眞	担当者 連絡先	校長: 芦田 宏直 TEL: 03-3360-8885

### 1. 事業の概要

#### [開発の背景]

人口減少下における企業の人材確保や若年者の社会的・職業的自立が問題となるなか、学校から社会への円滑な移行や、将来の我が国経済を支える人材の確保・育成を図ることは、極めて重要なことである。また、社会の成熟化に伴い、一人一人の社会構成員がこれまでの他人依存体質から抜け出し、自助、共助、公助の連携を図りつつ社会を支えていくべきとするソーシャルキャピタルの機運が高まりつつある中で、次代を担う若者たちが「自己の個性を最大限に発揮しつつ、それを社会への貢献と社会的な自己実現に繋げる」道筋を示すことも、前者に劣らず重要である。

#### [開発の目的]

しかしながら、価値の多様化が急速に進み、また90年代の長期不況やデフレの影響を目の当たりにしたいわゆる「NEET・フリーター世代」やそれに続く若年者にとっては、自分に自信を持ちたい、社会や周囲から認められたいと思い、またものごとに対する旺盛な興味を持ちながらも、具体的に社会に向けて動き出す視点が見いだせないというジレンマに直面している。

昨年度実施した専修学校教育重点支援プラン「自己発見/自己ブランディング・プログラムの開発/検証」は、どのように自らの持ち味や個性を見だしそれを社会に的確にアピールしていくべきか、その方法を獲得していない結果として自信喪失に陥っている、こうした若者達に自信と自己イメージを獲得させ、それをベースに、積極的な自己表現/情報発信と自己ブランディングの方法を身につけさせることを目標とし成果を上げた。本年度は、専門学校生だけではなくフリーター等若年者に対するプログラム開発であるため、社会における有用な人材として、さらに一步を踏み出すには、より一層自己分析を精緻化させ、また周囲との関係における気づきの体験の強化をはかると共に、「社会関係性」の視点に立った「社会的基礎能力」という分析軸を加えることによって、フリーターや社会に向けて動き出すための現実的な方針を立てられるようにすることが不可欠である。

- ① 自己の潜在能力を、よりリアリティを持って分析、確信すること。
- ② 「社会関係性」の視点に立って、自らの社会的役割を見だし、社会に向けた行動を起こす動機を形成すること。
- ③ 自らの個性を最大限に発揮しつつ、社会的な自己実現に繋げること。を目指すと共に、
- ④ これをサポートするべき指導教員のファンリテーション能力の大幅な向上を可能とする指導手引書を開発する。

ことを通して、従来型就職テクニックの指導から脱して、真に社会が求めている社会共有価値を体現した、自立した社会人を育成し正規就業を支援するものである。

## 2. 事業の評価に関する項目

### ①目的・重点事項の達成状況

本事業は昨年度専門学校生を対象として開発した「自己発見・自己ブランディングプログラム」をフリーターなどの若年者を対象とした教材に改編することを目的としてスタートした。昨年度の教材は専門知識や技術には強いが表現力に課題がある学生を、自己発見/自己ブランディングの観点から技能や適性、自分らしさや強みなどを潜在しているものを掘り起こし、それらを自ら表現演出する能力を磨くことを主体に開発したものである。開発後に専門学校へ多数配布した結果、残部の請求やコピーの許可など多数のお問合せがあり、一定の成果を収めたが、1次開発後の実証研修のサンプル数が少なかったことや、開発校のみの実施だったために分野よっての偏りを、修正するには及ばなかった。

本年度は昨年開発した教材をサンプリング研修を実施して、より精度の高い教材を開発することを目標とした。調査分析の結果下記の4点について内容の強化をはかった。

①作文評価の仕組みがない。採点基準がないために最終課題の自己紹介文の評価ができない。

改善点:採点基準を設けた。全5項目減点式で100点満点。

②単語(キーワード)を選んで思考させる形式だったために、文章化するステップアップ指導が弱い。

改善点:最終課題(目標)・評価尺度の明確化により、各段階の目標達成をはっきりと定義した。

③「なぜ」「どのように」という掘り下げへのサポートが弱かった。

改善点:理論展開より、まず体験(これを引き出すための具体的な質問を多数用意して)など思い出しやすいエピソードから書く。

④個別の質問や課題には答えられるが、長文にまとめるのがたいへん。

改善点:長文にまとめるための工夫

A. 文章を作成するための材料を出させてまとめる次のプロセスへ進める。

B. 文章をまとめるための掘り下げる思考のルールを教える。説明するために必要な情報を整理する。

C. 文章をまとめるためのコツを知る。文章の構成パターンの提示や文章チェック方法の提示。

加えて、テキストデザインについても参照指示性(…を参照せよ)を強化することや、学習の流れを表示するための矢印をなるべく廃して、言語で考えられるように改編した。

結果、実証研修において、事前1,000文字自己紹介文と研修最終課題の自己紹介文で明らかな改善があった。本事業は単に、自己紹介文を書けるようになるのが、目標ではなく文章を作成する課程を重要視することによって、より深く自身を知ると言う目標が達成できた。

### ②事業により得られた成果

#### ■開発した教材

「就職用・自己紹介文」作成ワークショップ テキスト(学生用教材3冊、教員用手引書1冊、全4冊)

・「STEP1」自己分析・発見

・「STEP2」社会的自己分析・発見

・「STEP3」自己表現・自己ブランディング(以上学生用教材)

・「就職用・自己紹介文」作成ワークショップ 指導の手引き(教員用)

### ③今後の活用

本教材は専門学校のどの分野においても、さらに一般の若年者にも活用できるように、教材開発を行ったものである。本教材は全国の専門学校1,620校に配布を完了している。既に本校に就職指導で取り入れたい。学生用に教材として配布したいなどの多くの問い合わせがある。

本校では数多くの学校で使用されるように、本教材を配布していく予定である。

また、本校の社会人対象の学校でも、就職指導の一環として取上げていく予定である。

### ④次年度以降における課題・展開

本教材はテキスト教材のために紙ベースでのみのデータ集積となっている。教員が学生一人一人の課題を分析していくのは、膨大な時間が掛かる。もし、本内容をデータベース化し電子化が可能であれば、それを集約してデータ化する事により、また新たな「キャリア指導」の指針が出来上がるものとする。

### 3. 事業の実施に関する項目

#### ①ニーズ調査等

##### 【昨年度開発教材のサンプリング研修】

調査のねらい: 昨年開発した教材を広くサンプルを取ることで、その内容の精度を向上させる方法を調査する。

対象: 委員の専門学校生を対象とした。

方法: 授業内もしくは特別授業として実施。(原則教材設定時間90分×6コマとしたが、時間の取れない学校は短縮版で実施)

調査項目: 学習を進めて行く上で学生が理解が困難な箇所を検索。また、文章化することが難しい箇所を検索した。

調査結果及び分析の内容: 昨年の教材は単語で拾い上げていく手法をとったために、学生のインスピレーションは確保できるものの、言語化して考察するには至らない箇所が多く存在することがわかった。また、求める箇所への転記箇所が多く学生が飽きてしまう要因になっていることも判明した。

#### ②カリキュラムの開発

■テーマ: 「就職用・自己紹介文」作成ワークショップ テキスト(学生用教材3冊、教員用手引書1冊、全4冊)

・「STEP1」自己分析・発見

・「STEP2」社会的自己分析・発見

・「STEP3」自己表現・自己ブランディング(以上学生用教材)

・「就職用・自己紹介文」作成ワークショップ 指導の手引き(教員用)

■開発経緯: 昨年開発した専門学校生用教材「自己発見・自己ブランディングプログラム」のサンプリング数を確保し、専門学校生以外の若年者の就職を希望する者にも活用できるように、内容を向上させることとした。

■対象: 若年者で就職を志す者

■手法: 最終課題1,000文字の自己紹介文を作成するために、これまでの自分のプロフィールや趣向や性格を自己分析させ、次のステップで社会的な自己を認識させる。それを材料に最終1,000文字の就職用自己紹介文を作成させることにより自己を知る。

時間数: 90分授業を6コマ分

■開発内容: 自己から社会へ、その橋渡しをさせる構造とそれを文章として組上げていく方法を構築した。若年者にとって自己を振り返った文章を1,000文字で表現することは容易ではないが、あえてそれをさせる事により、仕事に就くための自己の確立とその表現および自己演出力を学ばせる内容とした。

#### ③実証講座

##### 【本年度開発教材の実証研修】

テーマ: 「就職用・自己紹介文」作成ワークショップ研修

その①

期間: 平成19年1月24日(水)～26日(金)17時～19時の3日間

受講者の属性: 雇用能力開発機構離職者訓練生(20歳前半から30歳前半まで)

受講者数: 20名

場所: テラハウスICA キャリア開発研究所にて

方法: 事前課題として1,000文字の自己紹介文を提出する。事後の最終課題1,000文字との差異を検証する。

受講者の反応: 自己発見の作業から始まるために最初は戸惑いを感じたが、テキストが進むにつれて、その設問意図が理解でき納得のいく自己紹介文が書けたとの感想が多かった。

その②

期間: 平成19年1月下旬から2月上旬

受講者の属性: トラベルジャーナル旅行専門学校 広島工業大学専門学校の次年度卒業学年学生

受講者数: 各12名

場所: 各校にて

方法: STEP2テーマ1部分を抜粋して実施(単語ではなく、言語で考えさせる工夫の実証研修をした)

反応: 昨年度の教材に比べて、言語で思考させる工夫のためにテーマ最終課題の文章にまとまりや論理性が出ていた。

#### ④その他

本事業の特色は、昨年度開発した自己発見・自己ブランディング教材を基盤として、若年者がどうしても躓いてしまう長文1,000文字の自己紹介文を、学生個人を知らない未知の読み手に分り易く演出して読ませられる文章を作成させることに注力して、サンプリング研修の結果を反映させて開発しました。

その弱点であった単語や短文からの拾い込みによる文章化を配し、実体験に基づいた項目を記憶の中から抽出させることにより、思考の掘り下げが容易になるように工夫をしています。また、その工程を踏むことにより自己形成の過程や、実体験において感じたこと、身についたことなどを思い出させて、自分ほどのような人なのかを明確に未知の人に伝えられるようになることを目標に開発しています。実証研修の結果からも、その文章化力の向上が見て取れる教材になりました。